

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

| | |
|------|-----------|
| 区名 | 天王寺区 |
| 学校名 | 大阪市立大江小学校 |
| 学校長名 | 樋口 義雄 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大江小学校では、第6学年 68名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均点で見ると、国語では2.2ポイント、算数では10ポイント全国平均を上回る結果となつた。領域別に見ても、国語はほとんどの領域において、算数はすべての領域において平均を上回った。一方で、理科は全国平均より2ポイント下回り、領域ごとに見ても若干ながらすべて下回った。

無回答率で見ると、国語・算数は全国平均より大きく無回答率が低いことに比べ、理科では、僅かながら全国平均を上回った。

児童質問紙では、自尊感情が高く将来人のために役立ちたいと考える児童が多く、困った時に相談できる児童が大半を占めていることが明らかになった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均を下回ったが、他の領域では全国平均を上回った。とりわけ、「情報の扱い方に関する事項」は全国平均を16.3ポイント上回った。

[算数] どの領域も全国平均を上回った。特に、「変化と関係」では、全国平均を5.7ポイント上回った。

[理科] 国語・算数とは対象的に、理科ではすべての領域で全国平均を下回った。特に、「地球」を柱とする領域では、12.9ポイント低く、重点的に補う必要性あることが明らかになつた。一方で、児童質問紙では「理科の勉強は好きですか」の項目に肯定的に答えた児童の割合が高いことから、学んだことを活用する力を育てていくことも、今後意識すべきこととして見逃せない。

質問調査より

本校は、「豊かな心で自ら考え判断し、すすんで行動する子を育てる」との学校教育目標のもと、安心安全な環境を整え、学習場面では、児童の興味関心を高めること、考えたくなるきっかけを大事にして取り組みを重ねている。取り分け、「学力向上支援チーム事業」として若手教員の授業力向上に重点を置いて取り組んでいる。また、縦割り班活動を通して、自己有用感を養い、自尊感情を育てている。

これら日々の積み重ねと各家庭の協力により、自尊感情が高い結果として表れており、幸せを感じている児童が多い結果が浮き彫りになっている。

今後の取組(アクションプラン)

積み重ねてきている授業研究と日々の授業改善により、国語と算数は全国平均を上回る結果となつた。本学年は、これまでに大阪市学力経年調査で市平均を下回ることもあったことから着実に学力が向上していると考えれる。一方で、理科に見られるように、学習そのものは好きであってもテストとなつたら正解にたどり着かない実態も見受けられた。これは、学んだことを活かした諸問題に取り組む時間・量が少なかったことによるものと推察できる。どの教科・領域でも、学んだことをアウトプットしていく時間の確保と実践を意識して取り組みを重ねていく。

また、児童質問紙では、概ね、安心安全な環境環境等に関する設問や自尊感情など児童の内面を問う設問に対する回答から、高い水準で推移していることが確認できた。今後も、この水準が維持できるよう、学校教育目標や学級目標を大切に、児童への肯定的な支援を継続したい。

【 全体の概要 】

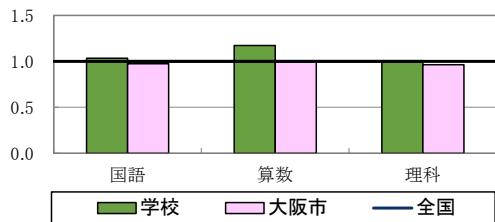
平均正答率 (%)

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|------|------|------|
| 学校 | 69 | 68 | 57 |
| 大阪市 | 65 | 58 | 55 |
| 全国 | 66.8 | 58.0 | 57.1 |

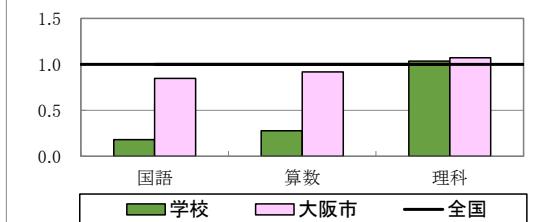
平均無解答率 (%)

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 0.6 | 1.0 | 2.9 |
| 大阪市 | 2.8 | 3.3 | 3.0 |
| 全国 | 3.3 | 3.6 | 2.8 |

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



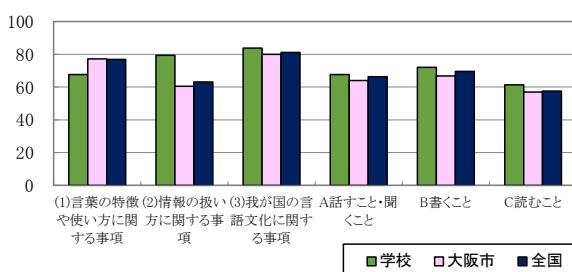
【 国 語 】

| 学習指導要領の内容 | 対象設問数(問) | 平均正答率(%) | | |
|---------------------|----------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 2 | 67.6 | 77.1 | 76.9 |
| (2)情報の扱い方にに関する事項 | 1 | 79.4 | 60.4 | 63.1 |
| (3)我が国の言語文化に関する事項 | 1 | 83.8 | 79.9 | 81.2 |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 67.6 | 64.0 | 66.3 |
| B 書くこと | 3 | 72.1 | 66.7 | 69.5 |
| C 読むこと | 4 | 61.4 | 56.9 | 57.5 |

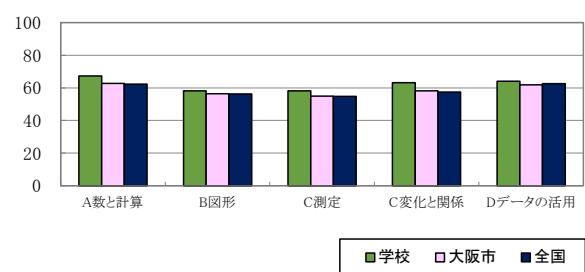
【 算 数 】

| 学習指導要領の領域 | 対象設問数(問) | 平均正答率(%) | | |
|-----------|----------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と計算 | 8 | 67.3 | 62.7 | 62.3 |
| B 図形 | 4 | 58.1 | 56.4 | 56.2 |
| C 測定 | 2 | 58.1 | 54.9 | 54.8 |
| C 変化と関係 | 3 | 63.2 | 58.2 | 57.5 |
| D データの活用 | 5 | 64.1 | 61.9 | 62.6 |

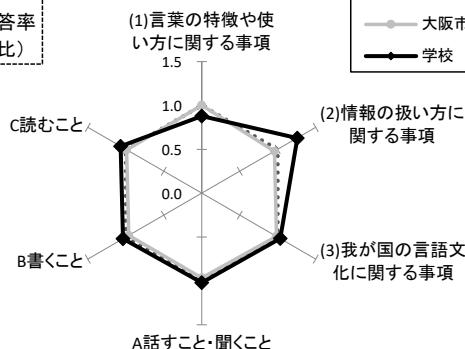
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



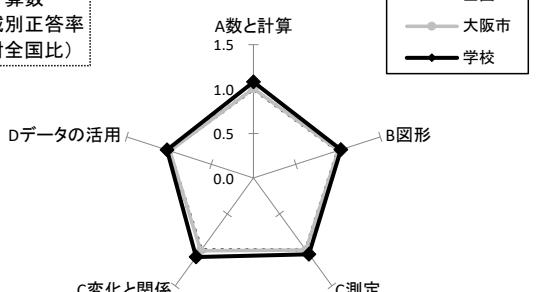
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

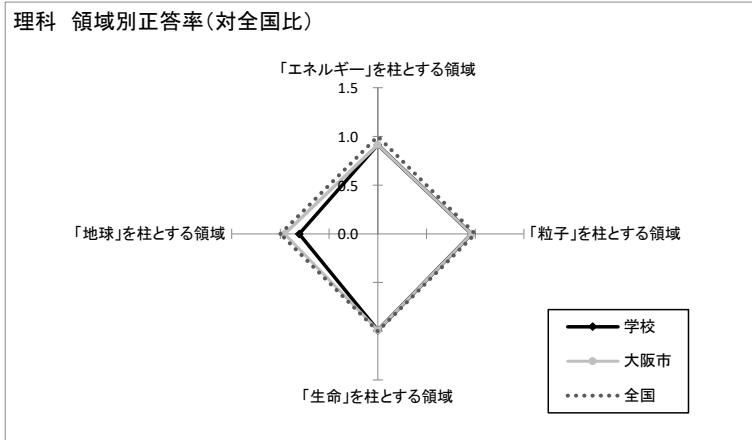
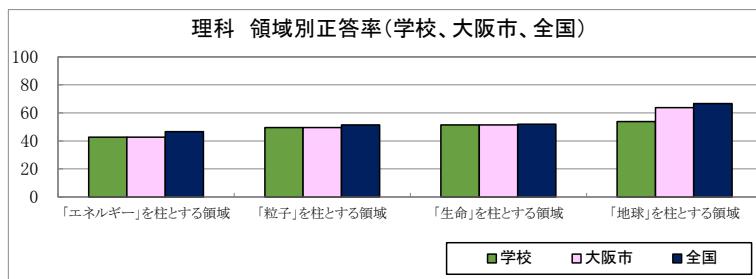


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

| 学習指導要領 の区分・領域 | 対象 設問数 (問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------|--------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 区分 | 「エネルギー」を 柱とする領域 | 4 | 42.7 | 42.7 |
| | 「粒子」を 柱とする領域 | 6 | 49.5 | 49.5 |
| B 区分 | 「生命」を 柱とする領域 | 4 | 51.4 | 51.4 |
| | 「地球」を 柱とする領域 | 6 | 53.8 | 63.8 |



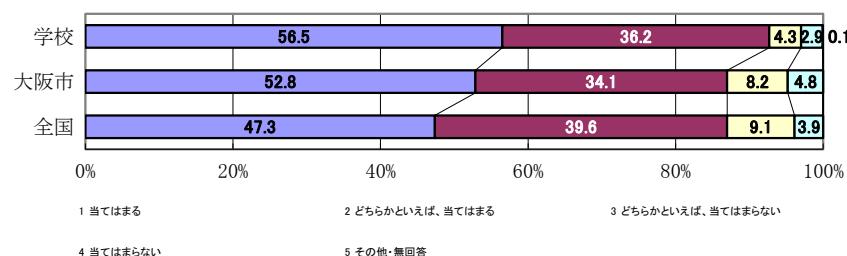
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

| |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

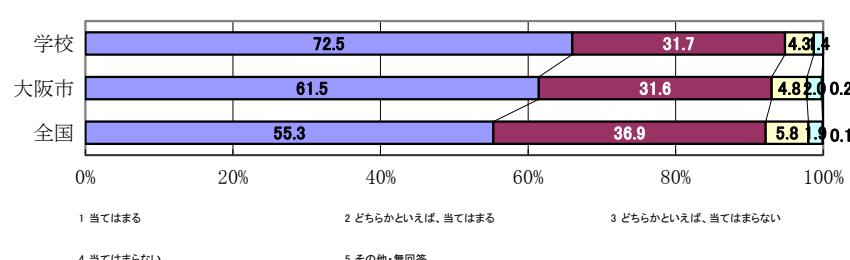
5

自分には、よいところがあると思いますか



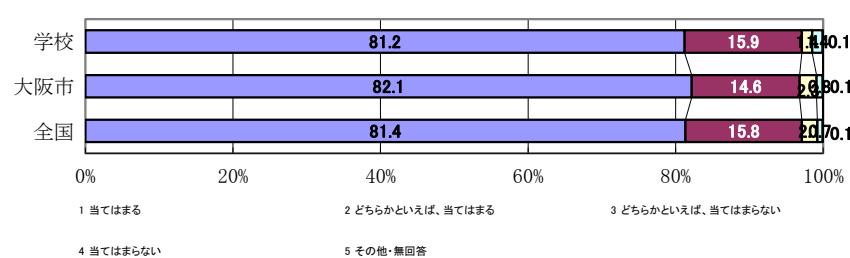
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



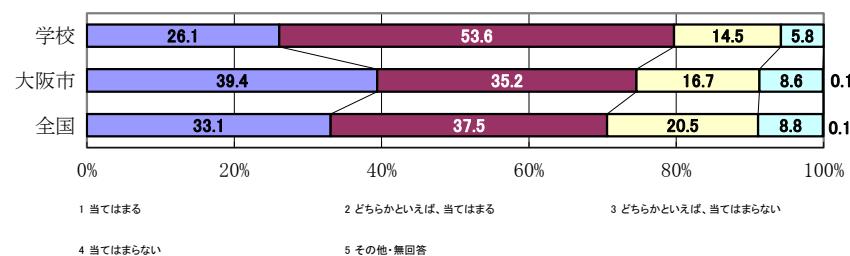
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



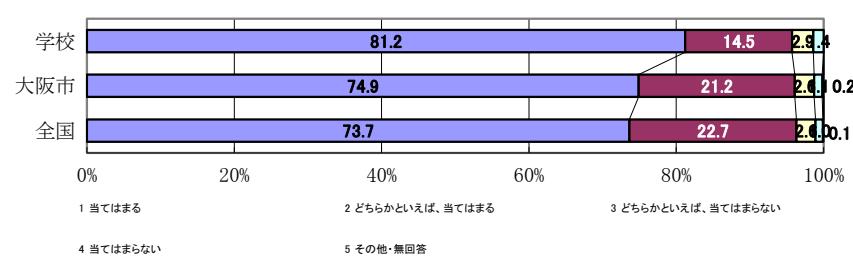
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



学校質問より

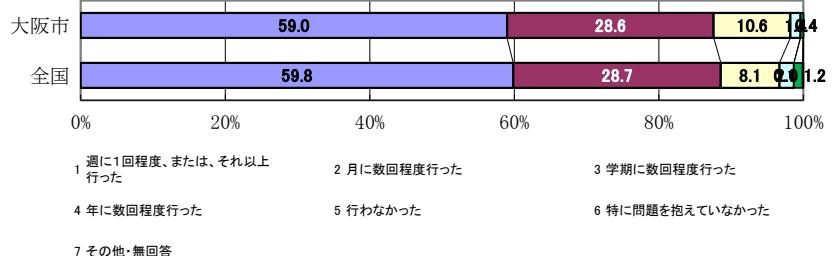
■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

| |
|------|
| 質問番号 |
| 質問事項 |

12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

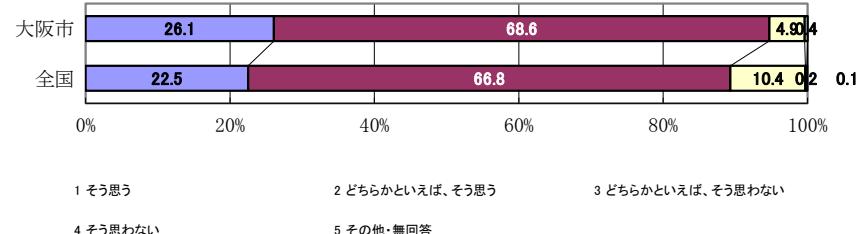
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

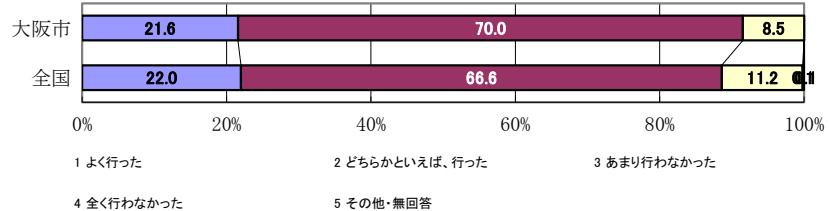
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

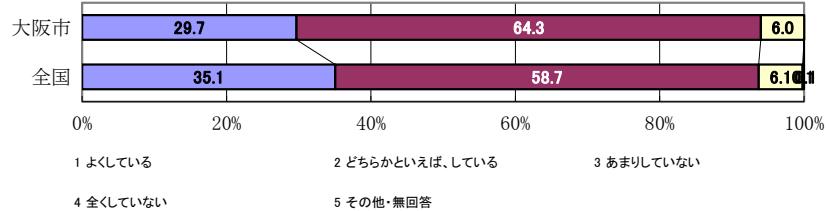
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



38

調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



53

調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

